

1. 令和6年度にぎわい交流館運営状況について

(1) 会議室等利用実績について（4～12月）

本年度は、台風による事業中止などは行いましたが閉館はなく、期間中の開館日数は271日でした。

本年度より、閉館時間が1時間早まり21時までの開館となり、夜間の利用時間は20時30分までと1コマ削減となりました。会議室の区分も変更となり、会議室1（旧A・B）・会議室2（旧C）・会議室3（旧D）・和会議室（旧E・F）と名称を改めました。昨年度は、感染症対策ルールを廃止し、利用時間帯についても改めて条例・規則に沿った運用ができるように整理しましたが、本年度は上記のような変更も踏まえ、従来の「にぎわい交流館利用の決まり」を修正しました。

会議室の利用人数は、前年度同期比で1%と微増となりました。依然としてコロナ禍前の6割弱の利用人数にとどまっています。利用件数（コマ数）は、昨年度の午前午後夜間各4件ずつから、午前午後各4件・夜間3件に変わりました。カウント方法の変更もあり単純比較はできませんが、利用率は、日数ベース・件数ベースともに約1%の微増となりました。日数ベースでは平均して82.5%と時間の無駄のない利用をいただいていると考えます。

会議室の利用時間区分と定員の変遷

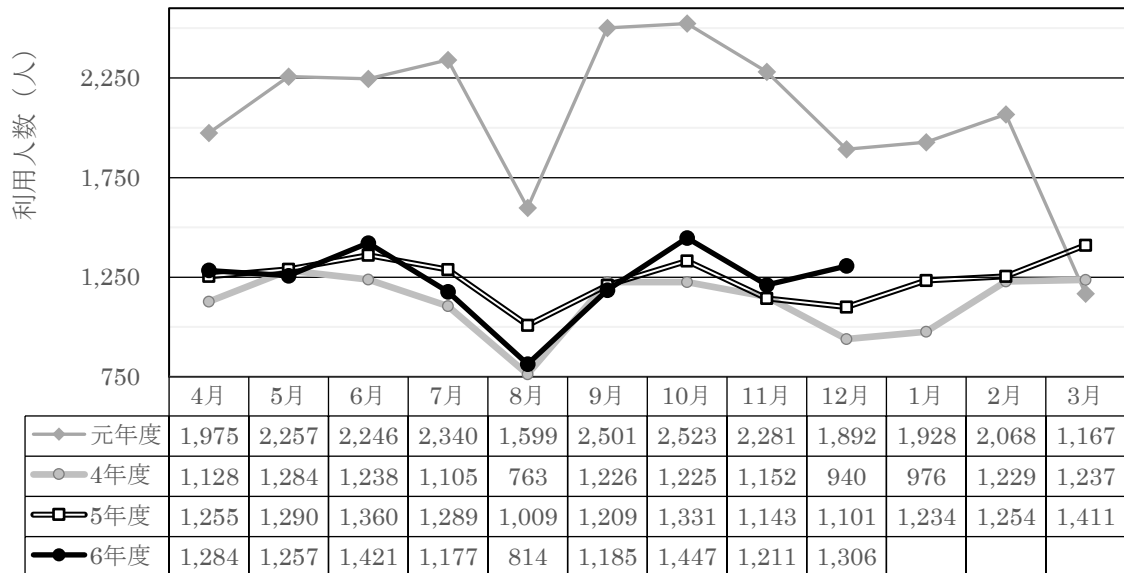
	利用時間区分（コマ）	会議室定員	その他
コロナ禍以前	区分なし	会議室ABC：51名 会議室D：15名 和室：16名	
令和2年6月～12月	午前 ①9：00～10：30 ②11：00～12：30 午後 ③13：30～15：00 ④15：30～17：00 夜間 ⑤18：30～20：00 ⑥20：30～22：00	会議室ABC：15名 会議室D：5名 和室：4名	※まん延防止等重点措置等を受けて、令和3年度まで一部の期間で開館時間を短縮しました。
令和3年1月～12月		会議室ABC：25名 会議室D：8名 和室：8名	
令和4年1月～	午前 ①8：30～10：00 ②10：00～11：30 ③11：30～13：00 午後 ④13：00～14：30 ⑤14：30～16：00 ⑥16：00～17：30 夜間 ⑦17：30～19：00 ⑧19：00～20：30 ⑨20：30～22：00	会議室ABC：34名 （※AB22名・C12名） 会議室D：10名 和室：8名 ※令和5年1月からAB・C分割利用が可能となった	連続利用：3コマ（4時間半） 特例利用で以下利用可 ・講義形式での利用で定員を上限
令和5年1月～			特例利用で以下利用可 ・講義形式での利用で定員を上限 ・部屋間の往来 ・同室の1日4コマ以上の利用 ・会議室内での飲食
令和5年3月13日～			特例利用撤廃 ・飲食時パーテーション利用又は適切な距離の確保の案内
令和5年4月1日～	午前 ①9：00～10：00 ②10：00～11：00 ③11：00～12：00 ④12：00～13：00 午後 ⑤13：00～14：00 ⑥14：00～15：00 ⑦15：00～16：00 ⑧16：00～17：00 夜間 ⑨17：30～18：30 ⑩18：30～19：30 ⑪19：30～20：30 ⑫20：30～21：30	会議室ABC：51名 （AB33名・C18名） 会議室D：15名 和室：16名	5類へ移行となり、感染症対策について撤廃
令和5年5月8日～			
令和6年4月1日～	午前 ①9：00～10：00 ②10：00～11：00 ③11：00～12：00 ④12：00～13：00 午後 ⑤13：00～14：00 ⑥14：00～15：00 ⑦15：00～16：00 ⑧16：00～17：00 夜間 ⑨17：30～18：30 ⑩18：30～19：30 ⑪19：30～20：30	会議室1・2：51名 （1：33名・2：18名） 会議室3：15名 和会議室：16名	先行予約方法の変更・会議室の続き間利用については継続

会議室等の利用状況（4～12月）

	R6 年度	R5 年度	R1 年度
開館日数	271 日	270 日	270 日
会議室利用人数	11,102 人	10,987 人	19,614 人
利用件数	3816 件	3,848 件	1,534 件
利用率（設定されたコマ数（時間帯）に対して利用があったコマ数の割合）	午前 52.4%	午前 48.4%	設定なし
	午後 51.6%	午後 52.5%	
	夜間 17.9%	夜間 17.9%	
利用率 （1 件以上の利用があった割合）	午前 92.6%	午前 90.4%	午前 91.9%
	午後 93.0%	午後 92.6%	午後 96.3%
	夜間 62.0%	夜間 60.4%	夜間 80.7%
会議室利用団体数	132 団体	132 団体	149 団体
1 件あたりの利用人数	2.9 人	2.9 人	12.8 人
印刷機の利用件数	181 件	239 件	424 件

※令和元年度の利用件数はコマ数ではなく、利用時間数に関わらず 1 件で計上しています。

会議室利用人数の推移



会議室ごとの利用人数・件数

		会議室 1・2 (旧 ABC)	会議室 1 (旧 AB)	会議室 2 (旧 C)	会議室 3 (旧 D)	和会議室 (和室)	合計
利用 人数	R6 年度	6,588 人	6,301 人	6,359 人	2,807 人	1,707 人	11,102 人
	R5 年度	6,601 人	6,225 人	6,195 人	2,805 人	1,581 人	10,987 人
	前年比	99.8%	101.2%	102.6%	100.1%	108.0%	101.0%
	R1 年度	11,127 人			4,988 人	3,499 人	19,614 人
	R1 年度比	59.2%			56.3%	48.8%	56.6%
利用 件数	R6 年度	1,497 件	1,425 件	1,450 件	1,350 件	969 件	3,816 件
	R5 年度	1,503 件	1,375 件	1,391 件	1,451 件	894 件	3,848 件
	前年比	99.6%	103.6%	104.2%	93.0%	108.4%	99.2%
	R1 年度	603 件			552 件	379 件	1,534 件
	R1 年度比	248.3%			244.6%	255.7%	248.8%

※

会議室の利用率（日数ベース）

利用 率	会議室 ABC			会議室 AB			会議室 C			会議室 D			和室		
	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間
R6 年度	73.1 %	77.1 %	42.8 %	70.8 %	74.5 %	40.6 %	72.3 %	75.3 %	41.3 %	72.7 %	77.1 %	29.9 %	64.6 %	56.5 %	10.3 %
R5 年度	71.5 %	77.8 %	41.5 %	65.9 %	72.6 %	37.0 %	68.1 %	70.0 %	39.6 %	71.9 %	79.3 %	37.0 %	51.1 %	56.3 %	11.1 %
R1 年度	75.2 %	88.9 %	61.5 %							73.7 %	88.1 %	53.0 %	64.8 %	76.7 %	38.5 %

※1 件以上の利用があった場合に計上。

会議室の利用率（コマ数ベース）

利用 率	会議室 ABC			会議室 AB			会議室 C			会議室 D			和室		
	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間
R6 年度	55.3 %	60.4 %	29.9 %	52.6 %	57.5 %	28.5 %	53.7 %	58.4 %	28.9 %	54.8 %	56.0 %	18.3 %	47.2 %	38.4 %	5.5 %
R5 年度	54.0 %	59.6 %	25.6 %	49.5 %	55.0 %	22.8 %	51.4 %	53.1 %	24.3 %	52.8 %	59.4 %	22.2 %	38.3 %	38.5 %	5.9 %
R1 年度															

※利用時間の区分に対してのコマ数を計上。2024 年 4 月からの区分は、午前 ①9:00～10:00 ②10:00～11:00 ③11:00～12:00 ④12:00～13:00、午後 ⑤13:00～14:00 ⑥14:00～15:00 ⑦15:00～16:00 ⑧16:00～17:00、夜間 ⑨17:30～18:30 ⑩18:30～19:30 ⑪19:30～20:30 ※R4 年度は⑫20:30～21:30 の区分あり。※R1 年度はコマ区分がないこと、会議室 AB・C の区分けではないため未記載部分がある。

(2) 市民サロン運営実績について

ワンデイシェフによるランチ提供は、5 団体の申請がありました。前年に保健所からにぎわい調理室の運用はレンタルキッチン扱いということで指導を受け、個別に営業許可の取得をしてもらう必要が生じ、オールフォーユーが 1 月まで休止・2 月中旬からの再開となりました。2 月からはさらに 1 団体増えて営業ができる予定です。この他、にぎわい交流館が自主事業として第 3・4・5 木曜日に、「にぎわいおひるごはんの日」を始めました。生活改善実行グループは農政課の補助金事業で 11～2 月にランチ提供することになり、期間限定で 1 団体が増えました。

1 日あたりの平均食数は 35.7 食となり、前年より 3.5%増加しました。平均して 40 食を超える団体が 4 団体あり、コロナ禍前のように活気があると来館者からお声をかけられる日も増えました。しかし、団体都合での休止で、市民の期待に応えられていない日も目立ちました。2 月からは営業日が増えるため、安定してきた頃には、ランチ利用促進の取り組みを進めていきたいと考えています。

マーケットは、団体都合で開催が休止しているところもあり、申請があった 8 団体の内 6 団体が利用しました。新しく加わった社会福祉法人ポレポレは、りんごあめや、お好み焼きなどの軽食の提供があり、会議室利用後の団体の利用が見られました。

ギャラリーの開催回数は前年度同期と同様 19 回となりました。Koeni による「子どもたちの落書き」展示や、参加型で行ったわいフェスの平和の短冊展示など大型の作品展示がありました。今年度は、にぎわい文化部発表会の展示発表として、前年度 1 日限りだったものを長期展示（11/2～17）で開催し、多くの来館者に楽しんでいただきました。

音楽の復活を望む声に応じて導入したサロンの USEN、にぎわい文化部発表会でのステージ発表を前年に続き開催しました。来年度はコンサートの開催ができるように体制を整えていく予定です。

	ワンデイシェフ						ギャラリー		
	食数（食）			1日平均食数（食）			展示回数（回）		
	6年度	5年度	元年度	6年度	5年度	元年度	6年度	5年度	元年度
4月	204	285	1,187	34.0	19.0	45.7	2	2	2
5月	253	272	961	25.3	22.7	41.8	2	2	0
6月	232	206	1,098	29.0	25.8	42.2	2	2	3
7月	239	111	1,157	39.8	27.8	46.3	5	2	3
8月	197	103	969	24.6	20.6	46.1	1	3	3
9月	357	113	1,060	39.7	16.1	46.1	1	2	1
10月	278	266	1,122	39.7	38.0	46.8	2	2	1
11月	400	164	1,142	40.0	32.8	45.7	2	2	3
12月	198	208	811	49.5	41.6	47.7	2	2	2
1月		54	901		54.0	42.9		1	1
2月		90	955		45.0	41.5		2	4
3月		129			43.0			2	3
合計	2,358	2,001	11,363	35.7	32.2	44.7	19	24	26

(3) 登録団体数について

にぎわい交流館の登録団体数は12月末時点で268団体であり、3年に1度の登録更新前の前年度末に比べて38件減少しました。新たに活動を始めた、登録を復活した等の団体が13団体ありました。

新規登録団体の主たる活動分野は、「保健・医療・福祉」（5件）が多く、次いで「子ども健全育成」（4件）となりました。

（単位：件）

	新規登録	登録取消	差引増減	年度末団体数
令和2年度				329
令和3年度	17	78	-61	268
令和4年度	29	9	20	287
令和5年度	22	3	19	306
令和6年度（4～12月）	13	51	-38	268

※令和4年8月に累計団体数の数え間違いが確認されたため修正しました。

(4) 相談対応について（4～12月）

期間中に対応した相談は309件でした。前年度同期（306件）とほぼ横ばいとなりました。

相談者の内訳は、「登録団体」が39.8%で最多となりました。次いで「市民」が39.2%でした。

相談内容の内訳は「施設利用・団体登録したい」が最多、次点が「館の運営・事業について」となりました。登録団体からは、3日間通して使いたい・予約時間より早く入室したい・音を鳴らす企画をしたいなど、会議室の基本的な使い方以外の相談が見られました。市民からは団体の活動状況についての問い合わせが目立ちました。ランチや喫茶・ギャラリー・文化部発表会などの事業へのお問い合わせも多かったです。

相談者の分類			相談内容の分類		
登録団体	123	39.8%	施設利用・団体登録したい	65	21.1%
市民	121	39.2%	館の運営・事業について	50	16.2%
未登録の団体	34	11.0%	団体について知りたい	39	12.7%
行政・学校等	20	6.5%	講座や団体を探している	24	7.8%
企業	11	3.6%	広報・集客について	21	6.8%
社協		0.0%	その他	110	35.6%

※比率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

(5) 主な事業の進捗状況

【受託事業】

	事業名	日程	参加者数等
1	にぎわい NEWS (Vol. 28) (Vol. 29)	令和 6 年 9 月 令和 7 年 1 月	発行部数 各 2,000 部
	市民活動に関心を持ってもらうため、市民向けの情報紙を発行した。特集のインタビュー記事を中心に構成。地区回覧がないため、団体への配布数を増やし、団体の名刺代わりにご利用いただいた。にぎわいでも祭り等で配布するなど、少しでも見てもらえるよう心掛けた。 Vol. 28 集まれ 90 代！ シニアライフをアクティブに 渡邊 仁司さん（日進植物画教室・天白川で楽しみ隊・日進自然観察会） 出原 伸平さん（日進里山リーダー会） 水谷 淑子さん（にぎわい句座） 島並 小枝子さん（菖蒲の会） Vol. 29 災害ボランティアについて考える 藤井さん・奥家さん（日進災害ボランティアコーディネーターの会）		
2	イベントカレンダー	月 1 回	発行部数 150 部
	登録団体やにぎわい交流館が実施する一般向けのイベント情報を集約し、月 1 回市内公共施設に設置する。当初の計画通り発行。掲載する情報が少ないこと・残部数が多いことなどもあり、今後は情報発信の形態を検討していきたい。		
3	にぎわい団体帖	令和 6 年 10 月発行	掲載団体 264 団体 発行部数 20 部
	市民活動団体の認知度向上・市民活動への参加促進のため、にぎわい登録団体の情報を掲載した冊子を制作した。市内公共施設等への印刷物送付やウェブサイトの公開を行った。		
4	にしんわいわいフェスティバル 実行委員会事務局	《令和 6 年度開催》 会議等 令和 6 年 4 月～8 月 開催 7 月 6 日（土）	《令和 6 年度開催》 実行委員 5 人 出展団体 83 団体 来場者 約 1,050 人
		《令和 7 年度開催》 実行委員募集 9 月 会議等 10 月～令和 7 年 3 月 （7 月 5 日（土）開催。ふり かえりまで継続）	《令和 7 年度開催》 実行委員 4 人
実行委員会などの会議の設計・進行、出展団体募集の受付、パンフレット作成、市との連絡調整など、運営のための事務を行う。 わいフェス 2024 は、主催を市とし、市と実行委員会の協働開催となり、市民自治活動を推進・支援していくために開催するイベントとして、より市民活動が伝わる形式を模索し発展させた形態を提案した。出展団体(テーマ型団体、地縁型団体、大学・学校、企業、行政)間の交流も図った。当初の計画通り実施。出展団体アンケートでは昨年よりも高い評価を得られた。一方で、準備撤収など開催までの運営の仕方についての意見もあり、今後の			

	事業名	日程	参加者数等
	検討課題となった。学生ボランティアが多く企画の手伝いもしていただいた。わいフェスで上映した映画の再上映希望などもあり、後日にぎわい交流館でアフタープログラムを開催した。 わいフェス 2025 では、市民活動やまちづくりを日進市で繋いでいくために、次世代の担い手である「家族・子ども・若者」の来場増加が必要不可欠であると判断し、楽しみながら、市民活動にふれることができるわいフェスを目指すことになった。実行委員は日頃から子ども・若者に親しむ団体の方が集まり、前回から3人が続投、新たに1人が加わり、新たな体制で丁寧な話し合いができています。		
5	地域環境円卓会議（団体向け講座）	Step1.令和6年12月15日（日） Step2.令和7年2月2日（日） Step3.令和7年3月16日（日）	14人（13団体） 22人（14団体）
	地域課題の解決や将来像の模索のために対話し、協働するまちづくりの場。今回は、私たちの生活すべての土台となる「環境」をテーマとし、まちづくりに関わる多様な団体が集まり日進市の環境を視点に語り合う団体交流会を設定した。わいフェス 2024 で行った「2030年のにっしんの環境と私」で考えたワークショップの結果を踏まえ、「環境」をテーマとして日進の魅力や課題についていろいろな人と出会い考えるワークショップを行った。Step2.では団体同士のマッチングを、Step3.では協力してできる事業を具体化する内容を予定。当初の計画より時期をずらして実施。		
6	もうちょっと上手になりたい人の Word・Excel・PowerPoint ミニ講座（団体向け講座）	令和6年9月12日（木）	6人（3団体） PowerPoint…5名 Excel…5名 Word…4名
	普段事務や広報のために利用しているアプリで、“もうちょっと良いものにしたい”けれどもうまくいかないという団体の悩みの解消を図り、団体内・外へのスムーズな情報発信を可能にし、にぎわい交流館で気軽に相談ができることを知る。Microsoft アプリの簡単な操作方法をおさらいしながら、コワーキング形式で実際に操作を行った。質問し、他の参加者も同時に聞くことで知識の再確認をすることをねらいとした。スタッフ用の研修の予定だったが、複数団体から学びたいという声が上がリ講座を行うことにした。当初の計画にはなかったが実施。		
7	にっしん市民まつり にぎわい交流館ブース	令和6年11月17日（日）	ブース出展 出展団体 13団体 来場者 1,713人 （出展団体からの報告の合計）

	事業名	日程	参加者数等
	市民活動団体によるブース出展（屋外 13 ブース、ワンデイシェフ 1 団体）を開催した。また、にぎわい交流館によるドリンク販売を行った。ブース出展の来場者数はコロナ禍前（令和元年）の 8 割程度、販売金額も 7 割程度に回復した。出展団体の満足度はとても高く、当初の目的はおおむね達成できた。市民サロンでは「にぎわい文化部発表会の展示発表」が開催最終日となっており、展示発表は 8 団体だった。		
8	にぎわい文化部発表会	展示発表：令和 6 年 11 月 2 日（土）～17 日（日） ステージ発表： 令和 6 年 11 月 10 日（日）	ブース出展 展示 8 団体 ステージ発表 8 団体
	にぎわい交流館の認知度向上、また、音楽を復活させ、にぎわいを取り戻す目的で、市民活動団体の活動発表の場として実施した。展示は既存のギャラリー利用期間を超過して設定し、最終日の市民まつり当日にはたくさんの来館者に見ていただけた。ステージでは集客において団体との調整が必要と感じる部分もあり、公平性とにぎわいの負担を考えた開催継続の形態を模索していきたい。もっと出展団体同士の交流をしたいと望まれる声もあり次年度以降に検討していきたい。		
9	日進のソーシャルグッドをつくる人（市民向け講座）	令和 6 年 10 月 19 日（土）	参加者数 21 人
	社会課題を解決に導くためには、どんな人にも社会に目を向け自分達でまちをつくらうという気持ちを持ってもらうことが必要であり、そのような機運を醸成したいと考えた。そのため、にぎわい交流館の登録団体ではないが、自分が感じる社会課題に主体的に楽しく取り組んでいる人を講師に迎え、まちづくりや市民活動に対するイメージの変革を図り、まちづくりについて考え実践することを、生き方の一つの選択肢としてもらうことを目的とする。放置山林を購入し社会問題の解決を図る取り組みをしている長尾仁哉さんをゲストスピーカーに招いた。参加者アンケートの結果から、日進に面白い人や頑張っている人がいるということが、同じ日進で暮らす別の人のモチベーションにつながるのだと感じた。今回の参加者の最年少である 8 歳の子は「内容はわからなかった」というものの、最後に講師から直接話しかけてもらえるなどして嬉しそうにしていた。他の参加者についても講座終了後に講師と直接話をしている様子が見られ、講話を聴くだけで終わらない学びやつながりを、このイベントの中で作れたと考える。		
10	団体交流会	令和 6 年 6 月 23 日（日）	参加者 22 人 （10：00～17 人、12：00～0 人、14：00～5 人）
	にぎわいを拠点にした団体同士のつながりを生み出すため交流会を開催した。気軽に参加できる体制を整えるため、わいフェス 2024 直前説明会開催と同日開催し、集客の効果が期待できるかを試す機会とした。模造紙を自由に使用してもらい、各団体の告知などに利用して頂いた。わいフェスのついでに寄ったという前年度不参加の団体や大学の先生など		

	事業名	日程	参加者数等
	の飛び込みもあり、一定の効果はあった。その半面で、やはり参加の分散があり全員が一堂には会することはできなかったこと、12 時の回の参加がなかったことから設定の課題も見えた。今後の団体交流会の企画時の参考にしたい。市民活動やまちづくり全体についての意見もあり、広い視点で考えていただける方の存在を知ることができた。他団体とつながれたと喜んでいただき、団体同士のつながり作りに寄与できた。当初の計画通り実施。		
11	友好自治体フェア	令和 6 年 8 月・12 月	
	友好自治体(木祖村、志摩市)との連携、ワンデイシェフの利用促進、来館者増加が目的。ランチフェアの開催を実施した年もあったが、現在ワンデイシェフの担当日が少ないこともあり開催はできなかった。木祖村フェアは市民協働課によって、にぎわい交流館でのギャラリー展示と会議室を利用した木祖村野菜産直フェアが実施された。志摩市は姉妹都市のオーエンズボロ市とともにギャラリー展示を行い、クリスマスカードの展示装飾を行った。		
12	ウェブサイト（リニューアル）	通年	
	スマートフォンでの閲覧や、市民の関心事項にアクセスしやすいウェブサイトを目指し、リニューアルを行う。登録団体やイベント、館内のワンデイシェフ・ギャラリー・マーケットなどの情報を市民に分かりやすく記載する。全面リニューアル作業中。4 月運用開始予定。		
13	U25 限定講座 わたしとみんなの困りごと（市民向け講座）	令和 7 年 2 月 22 日（土）	
	次世代のまちづくりの担い手づくりのため、講師の話をきくことで、生活の中で感じる違和感に蓋をせず考えてみようとする若者を増やす。「読みたい本がない」ということがきっかけとなり本屋を始められた ON READING 黒田さんをゲストにお迎えし、お話を伺う。みんなの困りごとと自分の困りごとを並べて、社会のあり方を考えるきっかけとし、これからの生き方についてのヒントにしよう。		
14	広報にっしん記事制作（中止）	年 1 回	
	にぎわい交流館の周知のため広報にっしんに情報掲載を行っていたが、紙面削減のため中止した。今後はウェブサイトや各 SNS での発信に力を入れたい。		

【自主事業】

	事業名	日程	参加者数等
1	にぎわい夜桜会	令和 6 年 4 月 6 日（土）	参加者 24 人（提灯作り：11 人 喫茶利用 9 人）
	にぎわい交流館の利用を促進する目的で実施。夜桜観賞や提灯作成のワークショップ・喫茶提供を行い、憩いの場として楽しんでいただけた。にぎわい交流館が初めての方もたくさん来館されて、少しでもにぎわい交流館を知ってもらえる場となった。団体からの自発		

	事業名	日程	参加者数等
	的なボランティア参加もあり新規団体の交流の場ともなった。		
2	事業報告・説明会（団体交流会と 共に実施）	令和6年6月23日（日）	参加者 22人（10:00～ 17人、14:00～5人）
	登録団体に対して、にぎわい交流館の前年度の事業成果について報告するとともに、本年度の事業計画について説明することにより、にぎわい交流館への理解を深めてもらう機会として団体交流会と共に実施した。刷新された印刷機やコピー機の利用方法などについて質問があり、使ってみようという意見もあった。		
3	お子様弁当無償提供事業等に関する登録団体のサロン棚利用	令和6年8月（5日間）	利用団体 2団体
		令和5年12月 ～令和6年1月（4日間）	利用団体 2団体
	全国チェーンの飲食店が無償提供する弁当を子育て家庭に配布するため、「にぎわいマーケット」の行為許可に準じて、市民サロンの棚を貸し出した。前年に続き、団体のニーズに合わせて実施した。		
4	にぎわい夢まつり	令和6年9月15日（日）	出展団体 9団体 ブース来場者 1,209人 （出展団体からの報告の合計）
	市民活動団体によるブース出展（7ブース7団体）のほか、日進絆子ども食堂による飲食提供（アジパンダ食堂）、にぎわい交流館によるドリンク販売を行った。来場者は昨年とほぼ同等、販売金額は1割程度向上と好調な結果となった。出展団体の満足度もかなり高く、当初の目的はある程度達成できた。にぎわいドリンクは昨年の結果を活かしペットボトルの種類を少なくして仕入れ、完売となった。		
5	にぎわいおひるごはんの日	通年	
	ワンデイシェフが少ないため、実施がない日に、にぎわい交流館スタッフによる手作りのランチを販売する。当初団体支援や市民活動啓発の場になるように登録団体との協力を想定したが、金額や時期の問題もあり難しかった。学校給食課からのオファーで小中学校の給食コラボメニューを夏から開始し、カレーライスやキムタクご飯・木祖村産御嶽白菜を利用した中華丼の提供を行った。		
6	小さな団体のための個人情報保護講座（団体向け講座）	令和7年2月9日（日）	
	市民活動団体が扱う「個人情報」はたくさんあるが、任意団体であっても法令に沿って正しく取り扱う義務がある。そのため、法の規定の意図や、市民活動団体が取り組むべきことを初歩の初歩から説明する。講師は個人情報保護士の鈴木孝廣さん。		

その他特記事項

- 日進市社会福祉協議会ボランティアセンターと打ち合わせ……月 1 回を目安に、9 回実施。
- 日進市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会参加
- 日進市社会福祉協議会ボランティアセンター事業への参加……にっしん地域支え合い円卓会議
- 子どもの支援を考える会……「子ども食堂・フードパントリー」の立ち上げ講座等情報共有
- にっしん観光まちづくり協会参加……2 回（総会、理事会 1 回）
- わたしのまちのしあわせづくり委員会……3 回
- にっしん助け合いリビングラボ……全 5 回終了。参加チームでの実践参加 4 回
- 防災交通課移動政策室……のりものカード配布・石田彰さんの名入れクリアファイル配付。
- 公益財団法人とよしん育英財団表彰……自薦 4 団体を推薦
- 生ごみ処理機（環境課）モニター設置
- 平和のつどい講演参加
- 日進市新規採用職員研修……講師として参加
- 『市民活動センターの役割と評価を考える（仮題）』アンケート調査に回答。愛知県内市民活動支援センター情報交流会世話人有志の会（窓口：ボランティアネイバーズ）
- ボランティアネイバーズ読書会（勉強会）
- 愛知淑徳大学 CCC……コラボメッセに参加
- 愛知学院大学リサーチプロジェクトへの協力……講義・発表見学等
- 名古屋学芸大学 SLC 訪問……「スペシャルニーズの子と共に育む会スマイル」と共にボランティア連携相談。
- 名古屋学芸大学教職映画上映会参加 映画『生きる～大川小学校津波裁判を闘った人たちを忘れない』
- 愛知学院大学「共働き前提世代の子育てを地域で支えるには？」参加・広報協力
- 名古屋商科大学……インタビュー。相談
- 職場体験……日進西中学校・北中学校・東海学園高校（アスクネット）の受け入れ
- アジア保健研修所（理事として参加）
- ……小学 6 年向け出前講座プログラム作り手伝い、ガザ報告会参加
- 福祉まちづくり座談会（わたしのまちのしあわせづくり委員として参加）……2 回 等

2. 令和 7 年度にぎわい交流館運営計画について

(1) ビジョンと長期成果

運営の指針として平成 29 年度から掲げてきたビジョンについて、令和 4 年度に小幅の見直しを加えて使用しています。使用期間は第 6 次日進市総合計画（以下「6 次総」）の中間目標年に合わせ、令和 7（2025）年度までです。

ビジョン（まちの将来像）

市民・行政・NPO・事業者が効果的に連携しながら、
地域課題の解決に取り組むしくみができている

長期成果

A	B	C
地域課題と解決策の可視化、 対話による共有がなされ、 NPO が担う公共サービスの 領域が増えている	NPO が社会や自組織の 変化に対応して 成果を出し続けている	市民が地域の当事者として、 市民活動の受け手や担い手 となるための機会が 充実している

	長期成果に対する 数値目標 (R6 年度)	直近の実績	6 次総 2025 年の 目標値等	所感
A	行政と NPO の 協働事業件数 120 件	99 件 (R3) 116 件 (R4) 117 件 (R5)	108 件	協働事業件数は増加傾向が続く。今 後も、新たな協働を創出する環境づ くり努めたい。
B	にぎわい交流館 登録団体数 300 団体	306 団体 (R6 年 3 月) 268 団体 (R6 年 12 月)	327 団体	高齢化などにより活動を休止する 団体もあるが、新規登録もあり、全 体では増加傾向にある。令和 5 年 度に継続意向調査を行い 48 件が 登録取消となった。
C	ボランティア・NPO 活動への参加経験の ある市民の割合 17%※	14.7% (H30) 15.2% (R2) 15.6% (R4)	20%	寄せられる相談からも、ボランテ ィアに参加する意欲のある市民が 増えてきている印象がある。今後 も情報発信に努めたい。 ※ 2 年に一度の市民意識調査での計測 を継続する。

(2) 受託事業および自主事業

分類	事業名		受託／自主
施設管理・ 利用許可等		会議室、印刷機、団体専用事務室等の利用許可、団体登録 調理室・ワンデイシェフ、マーケット ギャラリー 施設管理（清掃、警備、植栽管理など） 人権・男女共同参画情報スペースの管理	受託事業
	(1)	喫茶提供、にぎわいドリンク にぎわいおひるごはんの日	自主事業
相談窓口	(2)	相談対応	受託事業
		事務支援事業（消耗品販売、名刺作成、データ印刷等）	自主事業
情報収集 および発信	(3) (4) (5) (6) (7)	市民活動、大学・学生団体に関するチラシ等の受付、配架 団体書庫、図書等収集・配架 にぎわいNEWS（2回） にぎわい団体帖（1回） ウェブサイト SNS 運用（Facebook、Instagram、LINE 公式アカウント、 X（旧 Twitter）等） メールマガジン イベントカレンダー（月1回） チラシ配送（市民自治活動奨励事業認定制度） キャラクター「わいわい」を利用したPR	受託事業
講座・ イベント等	(8) (9) (10) (11)	わいわいフェスティバル実行委員会事務局 団体支援事業（団体交流会含む） 市民活動啓発事業 にっしん市民まつり（にぎわい交流館ブース） 友好自治体に関する情報収集・PR	受託事業
	(12) (13)	にぎわい夢まつり にぎわい夜桜の日	自主事業
会議等への参 加、関係機関 との連携		にっしん観光まちづくり協会理事会 日進市ボランティアセンター運営委員会（社会福祉協議会） 子どもの支援を考える会（社会福祉協議会） わたしのまちのしあわせづくり委員会 日進市ボランティアセンター（社会福祉協議会）、日進市社会 福祉協議会 CSW、市民協働課自治振興係、大学のボランティ アセンター等との定期または不定期の情報交換	受託事業

※番号のある事業は、次ページ以降に説明があります。

	事業名	実施回数等	受託／自主	対応する 長期成果
(1)	にぎわいおひるごはんの日	通年	自主事業	
	ワンデイシェフの営業がない日（現状は第3・4・5木曜日）に、にぎわい交流館スタッフによる手作りのランチを販売する。学校給食課のオフアーによる給食メニューは月に1回程度で継続を検討。継続。			
(2)	相談対応	通年	受託事業	B
	市民や団体の相談を受け、助言や提案を行う。必要に応じて他団体・関係機関とのマッチングを行う。相談の内容により、専門家への相談につなげる。			
(3)	にぎわい NEWS	年2回	受託事業	C
	市民活動・ボランティアに関心を持ってもらい、活動への参加やにぎわい交流館への来館を呼びかけるため、市民向けの情報紙を制作する。各号のテーマは、活動分野やターゲットとなる層のバランスを考慮して選定する。20周年特大号を企画検討中。継続。			
(4)	にぎわい団体帖	1回	受託事業	C
	市民活動・ボランティアの団体を知ってもらい、活動への参加やにぎわい交流館への来館を呼びかけるため、全団体の情報を掲載した冊子を制作（情報更新）する。継続。			
(5)	SNS 運用	通年	受託事業	C
	これまで運用していた、Facebook ページ、X（旧 Twitter）、Instagram、LINE 公式アカウントに加え、note の運用を開始する。ウェブサイトのリニューアルに伴い goo ブログから note に変更し、視覚的に読みたい情報に届く工夫を考える。継続・新規取組。			
(6)	メールマガジン	月1回	受託事業	C
	イベントや助成金情報等をテキストメールで配信し、市民や団体に月2回の配信で情報の発信を行ってきたが、時代にそぐわないメールの形態であることなどから発信の仕方を再検討。ウェブサイトへのアクセスを促す形で時代に合ったメールマガジンの配信へとリニューアルする。形を変えて継続。			
(7)	イベントカレンダー	月1回	受託事業	C
	登録団体やにぎわい交流館が実施する一般向けのイベント情報を集約し、月1回市内公共施設に設置していたが、掲載する情報が少ないこと・残部数が多いことなどもあり、今後は情報発信の形態を検討していきたい。			
(8)	わいわいフェスティバル 実行委員会事務局	通年（7月5日（土）開催）	受託事業	C

	事業名	実施回数等	受託／自主	対応する 長期成果
	2025 年度は次世代の担い手である「子ども・若者」が楽しみながら、市民活動にふれることができるイベントとして目標設定をした。事務局として、会議の設計・進行、出展団体募集の受付、パンフレット作成、市との連絡調整など、運営のための事務を行う。出展団体(テーマ型団体、地縁型団体、大学・学校、企業、行政)間の交流・連携を図る。市民会館の工事に伴い縮小した形で実施予定。継続。			
(9)	団体支援事業	1 回以上	受託事業	A・B
	団体のニーズに沿った講座やイベントの企画、団体間の交流やネットワークづくりの支援をする。「地域円卓会議」に類した市民活動の課題解決や目標にむけての取組を支援する交流会、事務支援講座などを検討中。			
(10)	市民活動啓発事業	1 回	受託事業	C
	若者やにぎわい交流館に来館したことがない市民にアプローチする企画を行い、市民活動の裾野を広げ活動の多様性を創出する。「日進のソーシャルグッドをつくるひと」の第 3 弾や、若者企画として定期的に集える企画などを検討。継続。			
(11)	にっしん市民まつり（にぎわい交流館ブース）	1 回（11 月）	受託事業	C
	にっしん市民まつりの一環で開催し、団体が活動紹介したり資金調達したりする機会を設ける。継続。			
(12)	にぎわい夢まつり	1 回（9 月）	自主事業	C
	にっしん夢まつりに合わせて、団体が活動紹介したり資金調達したりする機会を設ける。継続。			
(13)	にぎわい昼桜夜桜会（仮）	1 回	自主事業	C
	にぎわい交流館の利用を促進する目的で実施。昨年の夜桜鑑賞からリニューアルし、昼間から企画を予定。内容を変えて継続。			
(14)	にぎわい交流館 20 周年事業	通年	自主事業	A
	R7 年 11 月 19 日に 20 周年を迎えるにぎわい交流館。これまでの 20 年を振り返りこれからを考える交流会や、館内案内・設備のリニューアルなど行い新しいにぎわい交流館を発信する。新規			